

# 第2次農村振興基本計画の 中間見直しの考え方

第1回伊勢市農村振興基本計画策定委員会  
令和4年8月3日

## 目次

<b>第1章 序論</b> .....	1
1. 計画策定の趣旨 .....	1
2. 計画の構成 .....	1
3. 計画の位置づけ .....	2
4. 計画の期間 .....	2
<b>第2章 地域の情勢と診断</b> .....	3
1. 地域の情勢 .....	3
2. アンケート結果 .....	19
3. 現在の農業・農村の主な課題 .....	20
<b>第3章 計画に係る地域の将来像</b> .....	21
1. 地域の将来の望ましい姿 .....	21
2. 農村振興のテーマ .....	22
3. 農村振興の目標 .....	22
<b>第4章 農村振興に関する施策の展開</b> .....	23
1. 地域の将来像実現のために必要な施策の基本方針 .....	23
2. 具体的な振興施策 .....	25
3. 目標達成に向けての関係機関との連携強化 .....	38
<b>第5章 計画の進行管理</b> .....	39
<b>□参考資料</b> .....	40
1. 策定体制 .....	40
2. 策定経過 .....	41
3. アンケート集計結果 .....	42



主に見直していく部分

## 第2章 地域の情勢と診断

### 1. 地域の情勢

#### (1) 人口

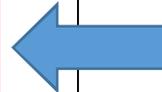
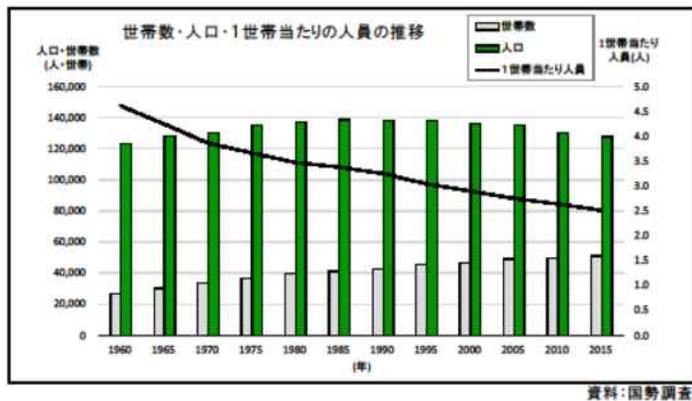
##### ① 人口・世帯数

最新の国勢調査結果によると、本市の総人口は、2015年で127,817人であり、1985年をピークに減少しているのに対し、世帯数は増加しつづけ、1世帯当たりの人員が3人以下となっています。

年次別世帯数・人口・1世帯当たりの人員の推移 単位:世帯、人

年次	世帯数	人口			1世帯 当たり人員
		総数	男	女	
1960	26,765	123,311	57,729	65,582	4.61
1965	30,235	128,242	60,247	67,995	4.24
1970	33,757	130,326	61,478	68,848	3.86
1975	36,821	134,910	63,891	71,019	3.66
1980	39,535	137,296	65,008	72,288	3.47
1985	41,019	138,672	65,398	73,274	3.38
1990	42,585	138,298	65,102	73,196	3.25
1995	45,457	138,404	65,293	73,111	3.04
2000	46,957	136,173	64,413	71,760	2.90
2005	49,045	134,973	63,856	71,117	2.75
2010	49,361	130,271	61,482	68,789	2.64
2015	50,938	127,817	60,467	67,350	2.51

※世帯数は不詳を含む総世帯数 資料:国勢調査  
 ※「1世帯当たり人員」は、人口の総数を世帯数で割った数



直近の統計数値を反映

(2) 土地利用

① 農地と林野

本市の総面積は20,835haであり、県全体の3.6%を占めています。市域の中で田や畑の耕地が占める割合は13%で、同様に10%である県と比較して高くなっています。また、神宮林の面積が5,493haと全体の約4分の1を占めています。

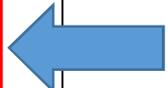
農地は、かんがい施設整備、農道整備、漏水防除事業への取り組みなど、生産基盤整備の推進により、おおむねのほ場整備が実施済みです。また、林野の占める割合は総面積に対し53%で、県のそれと比較すると10%程低くなっています。

土地利用状況 単位:ha

区分	耕地			林野	その他	総面積
	田	畑	小計			
伊勢市	2,380	431	2,810	10,957	7,068	20,835
構成比(%)	11	2	13	53	34	100
三重県	45,200	14,700	59,900	371,523	146,018	577,441
構成比(%)	8	3	10	64	25	100



※「その他」は総面積から耕地、林野面積を差し引いた面積。 資料:第63次東海農林水産統計  
 ※農林水産統計の耕地面積:3桁以下(四捨五入せず)、4桁(下から1桁を四捨五入)、5、6桁(下から2桁を四捨五入)  
 ※数値は四捨五入の関係で100%にならない場合があります。



直近の統計数値を反映

② 農業振興地域

農業振興地域面積は6,824haで、農業振興地域の中に占める農用地面積は2,903haで43%となっています。

また、農業振興地域内における農用地区域の面積は2,267haで、農用地区域設定率は33%となっています。

農業振興地域の現況地目別面積 単位:ha

区分	地目等 総面積	農用地					混牧 林地	農業 用施設 用地	遊休 地以外の 山林	その他	
		農地				採草 放牧 地					
		田	畑	樹園地	計						
農用地区域内用途区分	2,267				2,267	-	2,267	-	-		
現況											
農業振興地域	6,824	2,323	526	53	2,903	-	2,903	-	20	1,373	2,529
農用地区域	2,267	1,873	353	21	2,246	-	2,246	-	20	-	-
農振白地地域	4,558	451	174	32	656	-	656	-	-	1,373	2,529

2016年12月1日時点

資料:伊勢市

### ③ 地域別土地利用

#### 7. 大湊・神社地区

市の中央部に位置し、海岸に面した渚田が多く、農業生産は水稲単作が主体です。また、都市混住化が進んでいる地域であり、都市住民のニーズに合った施設園芸、露地野菜の生産が行われており、市民農園が整備されています。

#### 8. 宇治・浜郷・四郷地区

市の東部に位置し、渚田が比較的多く、農業生産は兼業農家による水稲単作が主体です。そして、この地域で生産されている朝熊小葉は、生産農家は減少しているものの、根強い人気があります。都市混住化が進んでいるため、都市住民のニーズに合った施設園芸、露地野菜の栽培などが適しています。

#### 9. 北浜・豊浜地区

市北部の平坦部に位置し、ほ場整備がほぼ完了した本市農業の中心地の一つです。共同利用施設の整備が進む中、農作業受委託が年々拡大され水田農業の低コスト化が図られつつあり、施設園芸・露地野菜についても着実に産地が拡大し、担い手育成が図られています。担い手への農地の集積、農作業の受委託の促進、高能率機械施設の共同利用、生産の集団化を通じ生産性向上が図られています。

#### 1. 城田地区

市の西部、玉城町と隣接する本地区は、平坦部においては、ほ場整備がほぼ完了し、施設野菜、露地野菜、畜産などが行われています。水稲は自己完結型の色彩が強い地区でしたが、最近では新たな集落営農組織の結成や、担い手への農地の集積が行われています。また、市内で最初に集落単位の人・農地プランを作成するなど、農業者と住民と一体となり、自らの問題として地域農業の将来の課題解決に向けて取り組んでいます。

#### 2. 宮本・沼木地区

市南部の中山間地に位置する本地区は、平坦部のほ場整備は完了しています。農業生産は兼業農家による水稲単作が主体ですが、丘陵地では市の天然記念物に指定されている蓮台寺柿が生産されており、山間部では横輪町を中心に横輪いものブランド化に取り組んでいます。また、獣害対策に地域が一体となって積極的に取り組んでいる地区でもあります。

#### 3. 二見地区

松下・江地区は、五十鈴川派川流域、山地では不整形な農地が多くなっています。また、三津・山田原・溝口地区は、ほ場整備事業が完了し、農地の集積が図られています。



直近の状況を反映

・地域の作付け品目の変更に対応

着実な整備が必要です。施設の老朽化の対策として、機能保全のための計画を進めています。

(4) 遊休農地

2007年度当時の農業振興地域内の農用地区域内における遊休農地面積は約70haであり、5年後の2012年度には約101haに増加しました。そこからの5年間は若干の増減はあるものの横ばい状態で、2016年度には約103haとなっています。

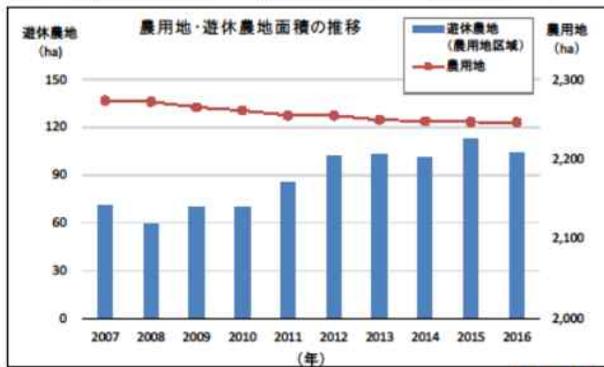
また、2007年度と2016年度を比較すると、約33ha増加しています。

遊休農地は、後継者不足、相続による土地持ち非農家の増加及び農産物の価格低迷による販売金額の減少等の要因により発生しています。

また、遊休農地の増加は、雑草の繁茂や病害虫の発生など近隣農地への悪影響を及ぼし、担い手への農地の集団的利用の阻害要因となるなど、農業経営の現場でさまざまな問題を引き起こしています。

農用地・遊休農地面積の推移

年度	農用地区域内の 遊休農地 (ha)	農用地 (ha)	割合 (%)
2007	70.4	2,273.0	3.10
2008	59.0	2,272.0	2.60
2009	70.2	2,265.0	3.10
2010	70.0	2,261.0	3.10
2011	85.6	2,255.0	3.80
2012	101.5	2,254.6	4.50
2013	103.0	2,249.0	4.60
2014	100.7	2,247.7	4.50
2015	112.5	2,246.6	5.00
2016	103.4	2,246.4	4.60



資料：伊勢市

← 直近の実績値を反映

経営規模は零細で、5 ha 未満の経営林野が全体の 90% を占めており、ほとんどが農業との兼業で、特に第二種兼業農家として他産業に従事している者が多い現状にあります。

本市では、森林経営の合理化、森林の公益的機能の維持増進を図るため、林道などの基盤整備の強化、緑化推進、森林病虫害等防除事業、有害鳥獣捕獲事業などを進めています。

また、地域林業の振興と林政の中核的役割を担うため、森林組合の活動がますます重要となってきています。1994 年 4 月には本市を含む伊勢志摩管内 6 市町(本市、鳥羽市、志摩市、玉城町、南伊勢町、度会町)を事業区域とする「いせしま森林組合」が設立されました。

#### (4) 地域資源の掘り起し

##### ① 農産物

###### ア. 米

ほぼ全ての地区で水田が広がっており、主食用米に偏らず加工用米・新規需要米等の取り組みが行われています。

###### イ. 小麦

生産調整の重点作物として、北浜・豊浜・小俣・城田地区等で栽培しています。産地拡大を目指し、高品質化を進める技術導入を推進し、連作障害等の課題解決に向けた取り組みが行われています。

###### ロ. 大豆

主に小俣地区において、担い手による麦作裏栽培として取り組みが行われており、水田の高度利用と担い手への作業集積に取り組んでいます。

###### ハ. イチゴ

「三重いちご」として県内市場へ出荷しており、市場から高い評価を受けています。三重県で育成開発された、上品な香りが特徴の「かおり野」と、酸味が少なく甘い「章姫」を中心に栽培しています。

###### ニ. 青ねぎ

指定産地による秋冬ねぎとして県内、中京・京阪神方面に出荷しています。品質、収量の向上と生産安定、確立された周年出荷体制を推進しており、野菜類の生産高では上位を占めている品目です。

###### ヒ. 施設花き

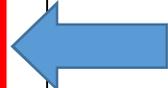
豊浜・御薮地区を中心に栽培され、バラ・ガーベラ・キク・トルコキキョウ等を出荷しており、市場では高い評価を得ています。

###### フ. トマト、ミニトマト

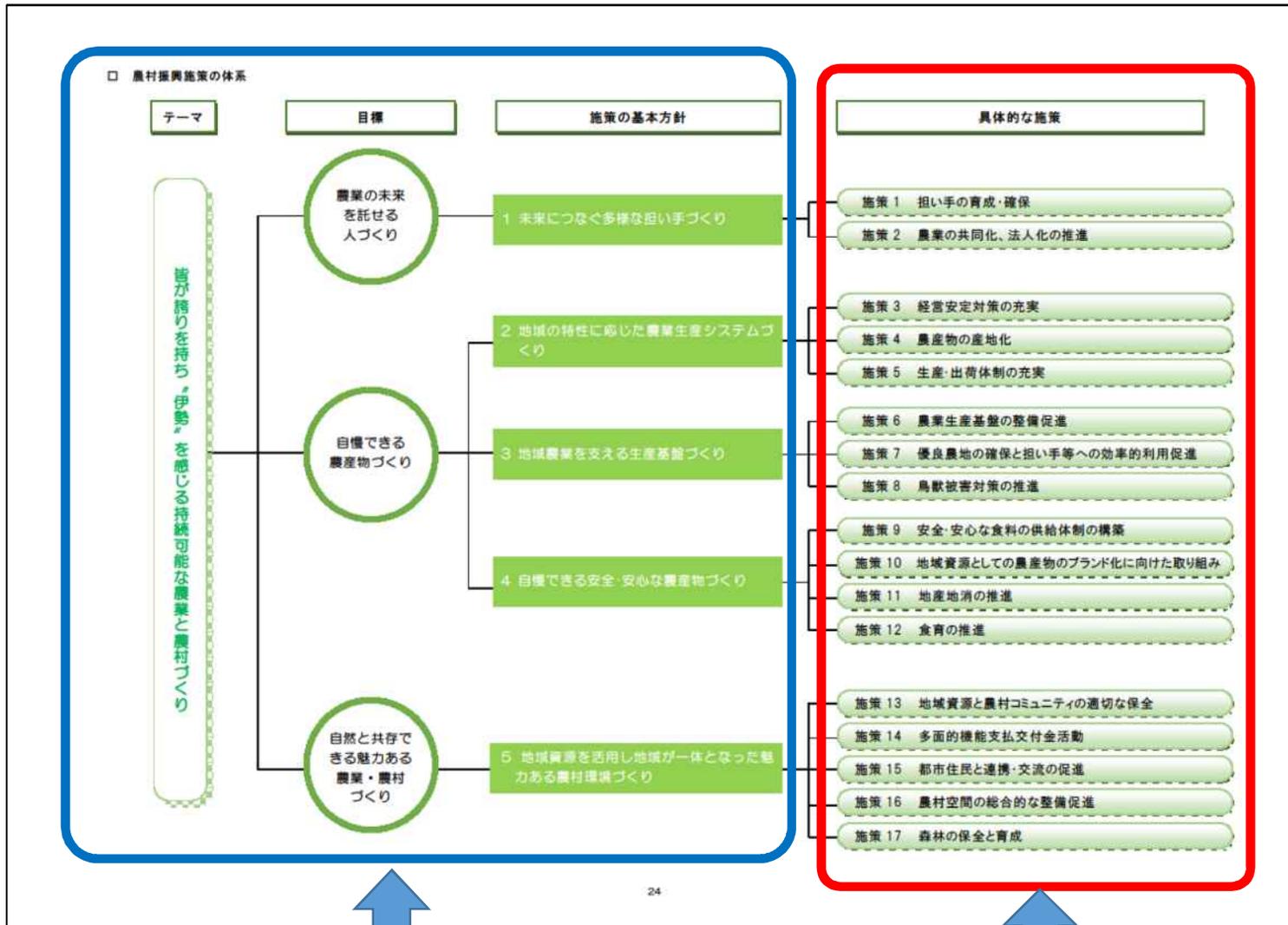
豊浜・小俣地区を中心に栽培され、県内を中心に大玉・中玉・ミニトマトを出荷しており、均一で高品質なトマトを消費者に提供できるよう研究に取り組んでいます。

###### ク. 蓬台寺柿

伊勢神宮のお膝元で栽培された渋柿で、脱渋処理をして出荷しています。まろやかでとろけるような口当たりの蓬台寺柿は、1958 年に市の天然記念物に指定を受け



直近の状況を反映



骨格的な部分に変更無し

必要に応じて具体的な取り組みの見直し

基本方針1 未来につなぐ多様な担い手づくり

施策1：担い手の育成・確保

【指標】認定農業者数	
現状値 2017年度	目標値 2027年度
126名 (2016年度)	126名 (2026年度)

【指標】認定新規就農者数（累計数）	
現状値 2017年度	目標値 2027年度
4名 (2016年度)	21名 (2026年度)

- ① 認定農業者の維持（育成）並びに確保に努めます
  - 地域で中心的な営農を展開している農業者や経営規模の拡大を考えている農業者など、法人を含む経営体を把握し、認定農業者へのステップアップへの働きかけを行います。
  - 農地法、農業経営基盤強化促進法に基づく利用権の設定による担い手農家への集積を支援し、認定農業者の維持（育成）並びに確保に努めます。
- ② 新規就農者の確保に努めます
  - 将来の担い手となり得る子ども達の、農業・農村に対する理解を深めるため、農業者、本市、関係機関が一体となり、農業体験など学校教育と連携した活動に取り組みます。
  - 農業を魅力ある産業として位置づけるために、他産業従事者並みの年間総労働時間、年間農業所得の確保を目標に積極的な啓発活動を展開するとともに、就農しやすい環境づくりを推進し、新規就農者の確保に努めます。
- ③ 新規就農者育成の取り組みを支援します
  - 新規就農に必要な生産技術や経営管理技術の習得を目指し、先進農家及び関係機関等で行う農業研修を支援します。
- ④ 多様な農業の担い手を支援します
  - 有機栽培や無農薬栽培など、特色ある農産物づくりに取り組む農業者を支援します。
  - 女性農業者に対する経営・技術両面の各種研修会の開催等、女性が積極的に農業

必要に応じて目標指標の見直し

各取り組みの見直し

- ・ 有機、減農薬の推進
- ・ ICTを活用した農業の推進
- ・ 産官学連携による効果的な獣害対策  
etc